

DDL 実践を評価するためのテストと質問紙の開発

中條清美*, 水本篤**, 西垣知佳子***, 内堀朝子*, 横田賢司****,
キャサリン・オヒガン*****

Developing Tests and Questionnaires for Evaluating the Effectiveness of DDL Practices

*Kiyomi CHUJO**, *Atsushi MIZUMOTO***, *Chikako NISHIGAKI****, *Asako UCHIBORI**,
*Kenji YOKOTA***** and *Kathryn OGHIGIAN******

Keywords: Data-driven Learning, Pretest and Posttest, DDL Questionnaire, Noun Phrase Test, Remedial Grammar Test

1. はじめに

本稿の目的は、コーパスを活用したデータ駆動型学習(Data-driven Learning, 以下 DDL) を実践する際に必要なリソースである、事前・事後テストと評価アンケート(質問紙)の開発の概要について述べ、それらの実例を本稿に付して、教育関係者が自由に活用できるようにすることである。

第二言語教育を促進するための文法指導法については様々な先行研究があり、それらが教室指導に示唆を与えている。たとえば、村野井(2004: 116)¹⁾は、「文法的な説明を明示的に行う指導と例文をたくさん学習者に与えて帰納的に文法規則を学習者に習得させる暗示的指導を言語項目の特徴に合わせてうまく組み合わせることが大切であることなどは、教師が留意すべき重要なポイントであると考えられる」と指摘している。ここで言われている「例文をたくさん学習者に与えて帰納的に文法規則を学習者に習得させる暗示的指導」法として有効なも

のに DDL がある。

日本大学生産工学部においては2004年より国内外に先駆けて、日英バイリンガルコーパスを大学一般英語授業に適用してDDL教育実践を行ってきた。Table 1に、教育実践において開発し使用したコーパス検索ツール、コーパス、テスト、質問紙を年度ごとに示した。初年度の実践は5週であったが、翌年度は半期の実践へと拡大し、2006年度から現在まで通年の指導実践(ガイダンスや事前・事後テストを行うので実質的なDDL指導期間は20週)を継続してきた。本研究のDDL実践では、用例が日本語と英語で併記されるバイリンガルコーパスを利用している。大学初級レベル英語学習者にとっては英語のみのモノリンガルコーパスであれば難しく感じられるところを、バイリンガルコーパスであれば日本語訳が助けとなって、学習者の英語に対する苦手意識も薄まり、実際の学習効果も上がっている。さらに、学習者にとってコーパスを使った学習活動自体が「楽しい」「面白い」「新鮮である」「集中できる」などと感じられ、能動的な学習を促すという学習者からのフィードバックを

*日本大学生産工学部教養・基礎科学系教授

**関西大学外国語学部准教授

***千葉大学教育学部教授

****日本大学生産工学部教養・基礎科学系准教授

*****早稲田大学理工学術院非常勤講師

得てきた。筆者らは Table 1 に示した DDL 実践の進展にともない、多言語コーパス検索ツール、バイリンガルコーパスなどを開発して公開してきた（中條・アントニ・西垣, 2012; Chujo, Anthony, Oghigian & Yokota, 2013; 中條・西垣, 2016）^{2), 3), 4)}。また、半期あるいは通年の一般英語授業における DDL の教育効果や実践参加者の感想や評価を報告することによって、コーパスを用いた DDL は、基礎的な英語力の補完や充実を目指した教育に利用できることを示してきた（Mizumoto & Chujo, 2015）⁵⁾。

Table 1 に示したように、これまでの DDL 実践では、継続的に DDL 指導の教育効果を測定して、比較し、教材、指導法、ツール、コーパスの改良を行ってきた。並行して、実践目標に合致したテストと評価アンケート（質問紙）を作成してきた。具体的には、2008 年から英語中級レベル学習者向けに名詞句テストと動詞句テストを開発し、2012 年に英語初級（リメディアル）レベル向けに英語基礎文法力テストを開発した（中條・横田・長谷川・西垣, 2012）⁶⁾。これらのテストを開発したことで、事前・事後の教育効果の測定や教育効果の経年変化の観察が可能となった。

また、2004 年より 2012 年まで、5 段階評定による質

問紙と自由筆記を使用して学習者の意識調査・教材評価・感想を収集してきた。2013 年に、それらの集積データにもとづいて、新たに独自の DDL 実践向け質問紙を開発した。その質問紙を用い、マークシートで集計できるようになったことで、大量の学習者評価の収集および分析、学習者評価の経年変化などの比較が可能となった（Mizumoto, Chujo & Yokota, 2015）⁷⁾。

本稿では、筆者らが開発し、利用してきた DDL 指導実践向けのテストとアンケート（質問紙）の概要を述べ、同様の実践研究を行う教育関係者が利用しやすいように、それらの実例を提示する。以下では、第 2 節において、初級（リメディアル）レベル学習者向けのテストである中学・高校文法熟達度テストについて、第 3 節では、中級英語学習者向けの名詞句構造の理解を目指した DDL 指導実践向けに開発した名詞句テストについて述べる。第 4 節では、DDL 指導実践において使用する評価アンケート（質問紙）を紹介する。DDL 指導実践における文法学習活動を学習者がどのように感じているのか、また、DDL がどのような学習要因を持った学習者により効果が高いのかなどを調査する質問紙の実例を示した。第 5 節はまとめである。

Table 1 DDL Tools, Corpora, Tests, and Questionnaires since 2004

年	開発・使用したツールとコーパス		テスト	質問紙
2004 ～ 2009	ParaConc と日英新聞コーパス（CD-ROM）による検索練習（DDL）		2006 年から基礎文法項目テストを開発し使用 2008 年に「名詞句テスト」、2009 年に「動詞句テスト」を開発	自由筆記と自己評価
2010	ペーパー版 DDL（ParaConc 検索練習をプリント上に再現して実施）		名詞句・動詞句テスト	自由筆記と自己評価
2011	中級クラス対象に WebParaNews（日英新聞コーパス搭載の検索サイト）を開発し公開		名詞句・動詞句テスト	自由筆記と自己評価
2012	中級	WebParaNews 使用	名詞句・動詞句テスト	自由筆記と自己評価
	初級	AntPConc（ダウンロード版検索ツール）を開発、初級コーパス（非公開）を使用	リメディアル文法テストを開発	
2013	中級	WebParaNews 使用、LWP を開発（公開）	名詞句・動詞句テスト	DDL 質問紙の開発と使用
	初級	AntPConc と初級コーパス（非公開）	リメディアル文法テスト	
2014	中級	WebParaNews と LWP	名詞句・動詞句テスト	DDL 質問紙
	初級	AntPConc と SCoRE コーパス（公開）	リメディアル文法テスト	
2015	中級	WebParaNews と LWP	名詞句・動詞句テスト	DDL 質問紙
	初級	SCoRE 第二次開発版（SCoRE コーパス搭載の DDL 学習サイト）を試用開始 WebSCoRE（簡易版 SCoRE 検索サイト）を開発	リメディアル文法テスト	
2016	初級・中級クラスに SCoRE 第二次開発版（公開）あるいは WebSCoRE（公開）を試用		リメディアル文法テスト	DDL 質問紙

2. 初級（リメディアル）学習者対象の中学・高校文法熟達度テスト

文部科学省は2016年2月2日、中学3年生6万人と高校3年生9万人を対象とした英語力調査の結果を発表した（「中3英語力 国の目標遠く」日本経済新聞、2016年2月3日⁸⁾）。中学3年生の平均点は実用英語技能検定（英検）4級以下、高校3年生の平均点は英検3級程度という結果であった。2017年度までに、中学卒業時に英検3級以上の生徒の割合を50%以上に、高卒時に英検準2級程度以上を50%以上にという政府目標とはかけ離れた結果となった。小野他（2005）が全国の大学生に実施した大規模調査でも⁹⁾、在籍者の半数以上は英検3級または4級程度の英語力という大学が多いことが報告された。中條・西垣（2007）では¹⁰⁾、ある大学1年生の英語クラスで、英検3級以上に該当する学生は48%で、残りは中学卒業レベルにすら達していないということが報告された。

大学での英語授業においては、このような目標レベルに達していない、英語が不得意な学習者、すなわち補習が必要な「リメディアル」レベルの学習者に対する「リメディアル教育（やり直し教育）」（小野他、2005）¹¹⁾をどのように進めるかが課題の1つとなっている。限られた教育環境の中でリメディアル教育を効率的に進めるためには、学力レベルの実態を具体的に把握することが必要である。そこで筆者らは、中條他（2012）において¹²⁾、リメディアルレベルと考えられる大学生の英語力を測定するために、中学・高校で学習した文法項目から基礎文法力テストを作成し、授業実践において事前・事後テストとして活用してきた。以下では、当該テスト作成の概略について述べる。なお、当該テストの34問を使用したChujo, et al. (2013)¹³⁾の実践結果では、信頼性係数（クロンバックの a ）で.80の値が得られており、基礎文法力の知識を測定するテストとして使用することに問題がないと考える。

2.1 参考にした先行研究

中高英語教科書で扱われる、いわゆる「学校文法」（有村・天野、1987）¹⁴⁾や「学習英文法」（大津、2011）¹⁵⁾で扱われている文法項目を抽出するために、実際の中高英語教科書を参照して文法項目を作成した先行研究を調査した。その中から、文法項目策定の具体例や調査過程の詳細が具体的に記述されている研究として、中学校文法項目については白畑（2008）を¹⁶⁾、高校文法項目については内堀・中條・長谷川（2003）¹⁷⁾を参考にして英語基礎文法力テストを作成した。

2.2 中学校文法熟達度テスト

Table 2に示した中学校文法熟達度テストは、白畑

（2008）¹⁸⁾の「中学3年生の英語（文法）熟達度」で用いられた21項目にもとづいて作成した、「中学A版」50問と「中学B版」50問の合計100問のうち68問を掲載した。各問題文は、白畑（2008）¹⁹⁾の調査結果と比較できるように可能な限り忠実に作問を行ったが、最終的には、筆者らが対象とする学習者の実態に合わせて、すべての問題文に何らかの変更を施した。以下、主要な変更点を3点述べる。

一番大きな変更点は、出題形式の変更である。白畑（2008）では²⁰⁾、たとえば、受動態の習得状況を問う設問は、「カナダでは英語が話されています。English _____ in Canada.」のように下線形式で出題されている。下線形式の設問では下線部に何個の単語が入るかということも問われているため、受験者の負担が大きい。その点を配慮して、下線問題を「カナダでは英語が話されています。English () () in Canada.」のように空所補充問題に変更し、()をつけて語数がわかるようにした。

白畑（2008）では²¹⁾、たとえば *Wh* 疑問文に関する設問として、「A: どのくらいひんぱんに、沖縄に行きますか? B: 1年に1回です。A: _____ do you go to Okinawa? B: I go there once a year.」のように「疑問文 + 返答文」という2文からなる対話形式の出題が多い。このような対話形式の問題は、質問内容を理解し、かつ適切な返答ができる能力を問うことが可能である。本研究では、試験の問題数と、問題理解に要する時間を考慮して、対話形式を「どのくらいひんぱんに、沖縄に行きますか? () () do you go to Okinawa?」のような1文形式に変更した。

また、たとえば、名詞複数形に関する設問では、「たくさんの子ども達が今プールで泳いでいます。Many _____ in the pool now.」のように下線部分で名詞複数形と現在進行形の2つの項目を問っている。中学校文法熟達度テストでは、1問で問う調査文法項目を1つにしぼることとし、「たくさんの子ども達が今プールで泳いでいます。Many () are swimming in the pool now.」のように名詞複数形の1項目を問う問題文に変更した。

上記のような変更を加えた結果、筆者らの作成した中学校文法熟達度テストは、白畑（2008）²²⁾よりも平易な問題になり、英検4級や5級レベルの受験者にも心理的抵抗が少なく、実施が容易な問題となった。これらの問題は2012年から試用しながら、必要な問題については部分的に改訂を加えている。

2.3 高校文法熟達度テスト

内堀・中條・長谷川（2003）は²³⁾、高等学校で指導される文法の例として、*Unicorn* など3シリーズの高等学校教科書（2002年版）に扱われている文法項目の種

Table 2 Sample Grammar Test Questions (Junior High School Level)

1. 代名詞	主格	デイビス先生は私たちの英語の先生です。彼はカナダ出身です。 Mr. Davis is our English teacher. (He) is from Canada.
	所有格	あれは君の車ですか？ Is that (your) car?
	目的格	イチローは私たちに彼の写真を見せました。 Ichiro showed (us) his pictures.
	独立所有格	左側の本が私のです。 The book on the left is (mine).
2. 名詞複数形	規則形	何人かの学生は電車で学校に通っています。 Some (students) go to school by train.
	不規則形	手足が冷たい。 My hands and (feet) are cold.
3. 属格 ('s)		田中さんは父の友人です。 Mr. Tanaka is my (father's) friend.
4. be 動詞	<i>am</i>	私は京都出身です。 I (am) from Kyoto.
	<i>is</i>	私の好きな科目は理科です。 My favorite subject (is) science.
	<i>are</i>	父と私は野球ファンです。 My father and I (are) baseball fans.
	<i>was</i>	私の犬は二年前とても小さかったです。 My dog (was) very small two years ago.
	<i>were</i>	昨日彼らは東京駅にいました。 Yesterday they were at Tokyo Station.
5. Yes/No 疑問文	<i>Is ...?</i>	グリーン先生は私たちの新しい先生ですか？ (Is) Mrs. Green our new teacher?
	<i>Are ...?</i>	あなたは大学生ですか？ (Are) you a college student?
	<i>Was ...?</i>	5年前ケンジは中学生でしたか？ (Was) Kenji a junior high school student five years ago?
	<i>Were ...?</i>	その時、太郎と次郎は眠かったですか？ (Were) Taro and Jiro sleepy then?
	<i>Do ...?</i>	あなたは田中さんを知っていますか？ (Do) you know Mr. Tanaka?
	<i>Does ...?</i>	あなたのお母さんは働いていますか？ (Does) your mother work?
	<i>Did ...?</i>	あなたは昨夜勉強しましたか？ (Did) you study last night?
	<i>Can ...?</i> (能力)	洋子は泳ぐことができますか？ (Can) Yoko swim?
	<i>Shall ...?</i> (依頼)	窓をあけましょうか？ (Shall) I open the window?
	<i>May ...?</i> (依頼)	ドアをあけてもよいですか？ (May) I open the door?
	<i>Will/Would ...?</i>	窓を閉めてくれませんか？ (Will/Would) you close the window?
<i>Will/Be going to ...?</i>	来月東京へ行きますか？ (Will) you go to Tokyo next month?	
6. Wh 疑問文	<i>What ...?</i>	今日は何曜日ですか？ (What) (day) is it today?
	<i>What time ...?</i>	あなたは今朝何時に起きましたか？ (What) (time) did you get up this morning?
	<i>Where ...?</i>	どこに住んでいますか？ (Where) do you live?
	<i>Who ...?</i>	あの女の人は誰ですか？ (Who) is that woman?
	<i>Whose ...?</i>	あれは誰の自転車ですか？ (Whose) bicycle is that?
	<i>When ...?</i>	いつ博多にいきますか？ (When) do you go to Hakata?
	<i>Which ...?</i>	あなたはどちらの色がお気に入りですか？ (Which) (color) is your favorite?

	<i>Why ...?</i>	なぜ圭子は笑っているのですか？ (Why) is Keiko laughing?
	<i>How old ...?</i>	あなたのおじいさんは何歳ですか？ (How) (old) is your grandfather?
	<i>How often ...?</i>	どのくらいひんぱんに東京に行きますか？ (How) (often) do you go to Tokyo?
	<i>How far ...?</i>	ここから駅までどのくらい距離がありますか？ (How) (far) is it from here to the station?
	<i>How many ...?</i>	あなたは何人兄弟ですか？ (How) (many) brothers do you have?
7. 比較表現	原級	あなたはマイケルと同じくらい速く泳げますか？ Can you swim (as) (fast) (as) Michael?
	比較級	私はスポーツするより観戦の方が好きです。 I like watching sports (better) (than) playing sports.
	最上級	富士山は日本で最も高い山です。 Mt. Fuji is (the) (highest) mountain in Japan.
8. 時制	三単現	由美は毎週日曜日におばあさんを訪ねます。 Yumi (visits) her grandmother on Sundays.
	規則過去形	私は先週末キャロルとテニスをしました。 I (played) tennis with Carol last weekend.
	不規則過去形	彼はこの本を10年前に書きました。 He (wrote) this book ten years ago.
	時・条件節	彼女はその仕事を終えるまで外出できません。 She can't go out (until) she finishes the work.
	時制の一致	私はこれが何か知りませんでした。 I didn't know what this (was) .
9. 分詞 (後置修飾)	現在分詞	ステージで歌っている少女は私の友達です。 The girl (singing) on the stage is my friend.
	過去分詞	これらはグリーン先生によって書かれた本です。 These are the books (written) by Mr. Green.
10. 現在進行形		ヘレンは台所でお母さんを手伝っています。 Helen (is) (helping) her mother in the kitchen.
11. <i>to</i> 不定詞	名詞的用法	私は朝食が食べたい。 I want (to) (eat) breakfast.
	形容詞的用法	母は今日することがたくさんある。 My mother has many things (to) (do) today.
	副詞的用法	彼はパンを買うためにコンビニに行った。 He went to a convenience store (to) (buy) some bread.
12. 受動態	受動態	この部屋は私の弟によって使われています。 This room (is) (used) by my brother.
13. 現在完了形	完了	私はすでに宿題を終えました。 I (have) already (finished/done) my homework.
	継続	兄は8年間この家に住んでいます。 My brother (has) (been) living in this house for eight years.
	経験	私たちは北海道へ2度行ったことがあります。 We (have) (been) to Hokkaido twice.
14. 関係代名詞	主格 <i>who</i>	私にはロンドンに住んでいる叔母がいます。 I have an aunt (who) lives in London.
	接触節 <i>which</i>	私はあなたが見ている絵を描きました。 I painted the picture (you) (are) looking at.

15. 否定形	<i>doesn't</i>	私の英語の先生は授業で日本語を使いません。 My English teacher (doesn't) use Japanese in class.
	<i>nothing</i>	私は今日、何もすることがありません。 I have (nothing) to do today.
16. 法助動詞	<i>can</i> (能力)	私の兄はとても速く走ることができます。 My brother (can) run very fast.
	<i>may</i> (許可)	パスポートを拝見してもよろしいですか。 (May) I see your passport, please?
	<i>must/have to</i> (義務)	もう8時です。学校に行かなければなりません。 It's already eight. I (have) (to) go to school.
17. 存在構文	肯定文	図書館のそばにスーパーマーケットがあります。 (There) (is) a supermarket by the library.
	疑問文	その公園には木がたくさんありますか? (Are) (there) many trees in the park?
18. <i>it</i> (天候と時間表現)		今日は水曜日です。 (It) is Wednesday today.
19. 接続詞	<i>when</i>	子供のとき、私は千葉に住んでいました。 (When) I was a child, I lived in Chiba.
	<i>but</i>	彼は歌手ではなくコメディアンです。 He isn't a singer, (but) a comedian.
20. 間接疑問文		ジョンがどこに住んでいるか知っていますか? Do you know (where) John (lives) ?
21. <i>wh- to do</i>		私は彼にどこで切符を買えばよいかたずねました。 I asked him (where) (to) buy tickets.

類と説明行数を調査した。説明行数の多かった文法項目は、関係詞、時制、不定詞、分詞、仮定法、態、基本文型、第2文型、第5文型、*It* 主語構文、動名詞、句・節、助動詞、比較、前置詞、第3文型、形式目的語、譲歩、*S + seem + to* 不定詞、倒置、第4文型、強調、省略、*S + be + 形容詞 + that* 節、*S + V + O + to* 不定詞、副詞、接続詞、間接話法、否定、文の種類、存在構文、分詞（現在・過去）、無生物主語であった。

中條他（2012）では²⁴⁾、内堀他（2003）²⁵⁾の説明行数の多かった文法項目から、上述の中学校文法項目21項目に既出の項目を除外した19項目について、中学校文法熟達度テストと同形式の「高校A」30問、「高校B」の30問、合計60問の問題を作成した。2012年から教育実践で試用しながら部分的に追加や改訂を加えている。Table 3に「高校A版」と「高校B版」の問題例を示した。これらは、DDLリメディアル実践授業において、それぞれの実践の目的と対象者の状況に合わせてオリジナル版に適宜修正を加えて、日本大学および茨城高専のDDL実践で利用している。

3. 英語中級レベル学習者対象の名詞句テスト例

英語学習者の基礎的な文法力を伸ばすために欠くことができないのは、文全体がどのように組み立てられているか、文の構造（句構造）に関する知識と理解である。筆者らの基礎研究（Uchibori, et al., 2006）によれば²⁶⁾、実用的な英語表現から出題されるTOEICの文法問題にも、句構造に関する知識・理解が多く問われており、たとえば名詞句構造に関わる問題は24.4%を占めた。そこで、日本大学では、第2節で言及した初級（リメディアル）レベルの学習者よりも少し英語習熟度の高い学習者対象のクラスで、学習内容として句構造を選び、名詞句と動詞句の仕組みを理解するとともに、文中に存在するまともりとしての名詞句と動詞句を認識する能力の向上を図るための指導を行ってきた（Chujo & Oghigian, 2012; Chujo, Anthony, Oghigian & Uchibori, 2012）^{27), 28)}。本節では、それらのDDL指導実践に使用するために開発された名詞句構造の定着を確認するテストの概要について述べる。

名詞句構造の定着を問う「名詞句テスト」として3種類のテスト（1）名詞句境界把握テスト（語彙レベルに

Table 3 Sample Grammar Test Questions (Senior High School Level)

文法項目	問題例 (高校 A 版)		問題例 (高校 B 版)
1. 関係詞	頂上が雪でおおわれているあの山を見なさい。 Look at that mountain (whose) top is covered with snow.		ベッキーは両親がイギリスに住んでいる女の子です。 Becky is the girl (whose) parents live in Britain.
	私はいつもあなたのおっしゃることを信じます。 I always believe (what) you say.		高知は坂本龍馬が生まれた街だ。 Kochi is the city (where) Sakamoto Ryoma was born.
2. 分詞	現在分詞の限定用法	この眠っている犬は疲れています。 This (sleeping) dog is tired.	あの笑っている男の子は太郎です。 That (laughing/smiling) boy is Taro.
	過去分詞の限定用法	私は英語で書かれたメールを受け取りました。 I got an email (written) in English.	由美が作ったケーキはとてもおいしいです。 The cakes (made) by Yumi are very good.
	分詞の叙述用法	赤ちゃんは一晩中泣き続けました。 The baby kept (crying) all night.	少年たちは走って部屋に入ってきました。 The boys came (running) into the room.
3. 仮定法	もし私に翼があれば空を飛ぶでしょう。 If I (had) wings, I would fly.		私の車はとても遅い。日産 GTR をもっていたらなあ。 My car is really slow. I wish I (had) a Nissan GTR.
	もっと熱心に勉強していたら君は試験に受かっていただろうに。 If you had worked harder, you (could) (have) (passed) the exam.		もっとお金を貯めていれば私はハワイに行けたらなあ。 If I had saved more money, I (could) (have) (gone) to Hawaii.
4. 第 5 文型 (SVOC)	彼らは私を怒らせた。 They (made) (me) angry.		彼が親切だとわかった。 I (found) (him) kind.
5. 動名詞	野鳥を観察することはたいへん興味深い。 (Watching) wild birds is very interesting.		マンガを読むのはとてもおもしろい。 (Reading) comics is a lot of fun.
	私は 6 時に部屋のそうじを終えた。 I finished (cleaning) the room at six.		私は野球をして楽しんだ。 I enjoyed (playing) baseball.
	直子はゴルフをするのが得意だ。 Naoko is good at (playing) golf.		私たちのパーティに来てくれてありがとう。 Thank you for (coming) to our party.
6. 助動詞	部屋の鍵が見つからない。レストランでなくしたのかもしれない。 I can't find my room key. I (may) have lost it at the restaurant.		地面がぬれている。昨晚雨が降ったにちがいない。 The ground is wet. It (must) have rained last night.
7. 前置詞	地球は太陽のまわりを回る。 The earth moves (around) the sun.		彼は新しいカメラを 2 万円で買った。 He bought a new camera (for) twenty thousand yen.
	私の前にお座りください。 Please have a seat (in) (front) of me.		ジョンは部屋から出て行った。 John went (out) (of) the room.
8. 形式目的語	彼らは王女を笑わせるのはむずかしいとわかった。 They found (it) difficult to make the princess laugh.		私はその問題に答えるのは難しいと思った。 I thought (it) difficult to answer the question.

9. 譲歩	その薬はきらいだけど飲んでいる。 (Though/Although) I don't like the medicine, I take it.	私は海の近くに住んでいるけれど水泳が得意ではありません。 (Though/Although) I live in near the sea, I'm not good at swimming.
10. <i>S + seem</i> + <i>to</i> 不定詞	彼女は親切なようだ。 She (seems) to be kind.	僕の犬は英語を理解しているようだ。 My dog (seems) to understand English.
11. 第4文型 (SVOO)	母は自転車を買ってくれた。 My mother (bought) (me) a bike.	私は彼女に人形をあげた。 I (gave) (her) a doll.
12. 強調	最初に口を開いたのはトムだった。 It (was) Tom (who/that) spoke first.	私がふたたび彼女に会ったのはパリだった。 It (was) in Paris (that) I saw her again.
13. 副詞	父はたいてい7時前に帰宅する。 My father (usually/generally) comes home before seven.	彼はよく自転車で登校する。 He (often) goes to school by bicycle.
	彼は昨日一生けんめい働いた。 He worked (hard) yesterday.	その鳥は空高く飛んでいる。 The bird is flying (high) up in the sky.
14. 接続詞	この本はとてもやさしいので私はそれを読むことができます。 This book is so easy (that) I can read it.	急ぎなさい。そうしないと終電に乗り遅れるよ。 Hurry up, (or) you'll miss the last train.
	毎日練習しなさい。そうすれば上達するだろう。 Practice every day, (and) you'll make progress.	彼はとても疲れていたのが早く寝た。 He was so tired (that) he went to bed early.
15. 否定	だれも彼の電話番号を知らない。 (Nobody) knows his phone number.	砂糖入れの中には砂糖がまったく残っていない。 (No) sugar is left in the sugar bowl.
	本当に正直な人はほとんどいない。 (Few) people are really honest.	あなたにお話しすることは何もありません。 I have (nothing) to tell you.
	金持ちの人が必ずしも幸せとは限りません。 Rich people are (not) (always) happy.	寛容な親がいつもよい親であるとは限りません。 A generous parent is (not) (always/necessarily) a good parent.
16. <i>wh</i> 語を含む文	彼はなんと親切な少年なのだろう。 (What) a kind boy he is!	北島康介はなんと速く泳ぐのだろう。 (How) fast Kosuke Kitajima swims!
	それは私が知りたいことです。 That's (what) I want to know.	彼が言うことは本当ではありません。 (What) he says is not true.
17. 無生物主語	このバスに乗ればあなたは空港に行けます。 This bus will (take/lead) you to the airport.	この道を行けば湖に出ます。 The road will (lead/take) you to the lake.
18. 名詞の単複	政治学は私の好きな科目です。 Politics (is) my favorite subject.	あなたの髪は長すぎます。 Your hair (is) too long.
19. 代名詞	日本の気候はオーストラリアの気候とは異なります。 The climate of Japan is different from (that) of Australia.	インドの人口はアメリカの人口よりも多い。 The population of India is larger than (that) of America.
	その店ではどの本も100円で売り出されていた。 (Each) book in the store was on sale for 100 yen.	これらのコンピュータはどれも日本製でした。 (Each) of these computers was made in Japan.

応じて2種類のバージョン), (2) 名詞句部分英作文テスト, (3) TOEIC 形式名詞句テストを作成した。名詞句テストの作成の詳細は内堀・中條 (2010)²⁹⁾を参照されたい。これら3種類のテストは, それぞれ15問で合計45問であり, (2) 名詞句部分英作文テストのみ部分点を認めるため各問2点となる。そのため, 合計60点満点で素点を使用するか, 百分率に換算して報告してもよい。これまでの実践の結果では, 信頼性係数(クロンバックの α)で毎回おおよそ.80程度の値が得られており, 名詞句の知識を測定するテストとして使用することに問題がないといえるだろう。なお, 動詞句テストも作成して使用してきたが, テストの分量が名詞句テストの1.5倍の量であるため, 次の機会に紹介することにしたい。以下, 名詞句テストの種類別に述べる。

3.1 名詞句境界把握テスト

名詞句境界把握テストは, 文中の名詞句境界を認識できるかどうかを, 名詞句全体に下線を引かせて問うテストである。名詞句テストを開発するにあたり, 筆者らは, まず, 金谷 (2006)³⁰⁾の提案する Edit Grammar テストに注目した。金谷らは, 名詞句を把握するには, 句の境界を把握する力と句の内部構造を把握する力の両方が含まれるとし, これらの力が文の主語を把握するなど, 文の構造を把握する文法力の基本として重要であることを指摘している。Edit Grammar テストは, 名詞句を把握する力を測定するテストとして, 中学3年修了時まで学習する項目をカバーしている。筆者らも, 基礎的な文法力として句構造に関する知識・理解を重視する立場に立っているため, Edit Grammar テストを参照して名詞句の境界の把握を問うタイプのテストを作成した。ただし, 設問形式は「与えられた語を適切な箇所に入れる」Edit Grammar テストの形式から「名詞句に下線を引く」形式に変更した。

問題: 以下の名詞句の部分に, 下線を引いてください(1箇所とは限りません)。

The secretary ordered some expensive paper.

この文で下線を引く箇所つまり名詞句は, The secretary, some expensive paper の2つである。出題文は TOEIC の問題文に準じるが, 文を短くすることでレベルをやや易しくして作成した。このタイプの設問では, 文中における名詞句としてのまとまりが認識でき, 句境界を明確に把握できていることを, 受験者の能動的作業によって示さなければならない。この出題文の正解は2つあるので, 採点の際にはあらかじめ正解を some expensive paper と決めておき, こちらに下線が引けていれば正解とした。

名詞句境界把握テストの例として, Table 4 には問題文の語彙レベルを中学レベルに統一した15問を示した。各出題文には名詞句が複数含まれているため, 採点の際

に正解とする名詞句の部分をおおむね一箇所ずつ出題文ごとに決めておいた。Table 4 には, そのような正解を下線と太字で示した。Table 5 には語彙レベルが TOEIC レベルのものを含む名詞句境界把握テスト15問を示した。TOEIC レベルの語彙は, 中條 (2003)³¹⁾, 中條他 (2004)³²⁾の「TOEIC 語彙1, 2, 3」に含まれる語彙である。

各15問の問題セットごとに, テスト問題文と含まれる名詞句の長さを一定に保つため, 15問全体での平均語数は各9.1語, 名詞句の長さを4.5語に統一した。また, 出題する名詞句構造は基本的なものとし, Table 4 と Table 5 の問題文は最初から順に5問ずつ次の3種類: (1) Det + Adj + N, (2) Det + N + PP, (3) Det + Adj + N + to/-ing/-ed の名詞句構造の文に統一した。

3.2 名詞句部分英作文テスト

名詞句部分英作文テストは, 第2節でリメディアルレベルの文法テスト作成の際に参照した白畑 (2008)³³⁾の形式を参考にした。名詞句の内部構造を把握して作文する力を問う次のような問題を作成した。

問題: 日本文を見て () を英語で埋めよう。

ベッドの上で寝ているネコはタマです。

(The cat sleeping on the bed) is Tama.

部分英作文の採点は完全正解を2点とし, 名詞句構造とは関連のない部分の「惜しいミス」の解答は1点とした。筆者らの研究チームでは, テスト開発以来, 複数の同じ採点者が名詞句テストの採点を行っており, 採点情報を蓄積しているので常に同じ採点条件でテスト結果の変化を観察できる。

Table 6 には名詞句部分英作文テストの例を示した。問題文の語彙レベルは中学レベルに統一されている。15問全体での平均語数は各9.1語, 名詞句の長さは4.5語であり, 問題文の名詞句構造は上述の名詞句境界把握テストと同一である。

3.3 TOEIC タイプ名詞句テスト

TOEIC 形式名詞句テストの4肢選択問題の例は以下のとおりである。

問題: もっとも適切な語句を () の中から1つ選んで○で囲んでください。

A husband and wife must respect each other in order to have a good (marry, marrying, marriage, married). 解答: marriage

このタイプの設問では, 文の中の名詞句の境界を把握すると同時に内部構造を理解し, カッコの位置に生じるべき品詞の語を共通の語根を持つ派生形の中から選ぶことが求められる。この3つ目のタイプのテストに解答できるようになるためには, 基本的な句構造に関する知識と文法機能と密接に関連する語彙知識に加え, 両者を必

Table 4 Sample Test Questions for Identifying a Noun Phrase Using High Frequency (Easy) Vocabulary

	問題例
1	<u>That small boy</u> can play the piano very well.
2	<u>Our food problems</u> are really terrible these days.
3	<u>This young man</u> can speak many languages very well.
4	I bought <u>these old coins</u> at that shop yesterday.
5	A famous writer wrote <u>these comic books</u> .
6	Mike opened <u>the present from his friend</u> .
7	Do you like <u>the color of my dress</u> ?
8	<u>The white building on the hill</u> was my former high school.
9	<u>Some students from America and Canada</u> are living in this city.
10	<u>That car in the garage</u> was made in France.
11	I always need <u>something to read</u> on the train.
12	<u>The man wearing a red jacket</u> is our science teacher.
13	We have <u>a lot of homework to do</u> this week.
14	<u>The textbook written in English</u> is very difficult for me.
15	There are <u>many interesting places to visit</u> in Tokyo.

Table 5 Sample Test Questions for Identifying a Noun Phrase Using Higher Level (TOEIC) Vocabulary

	問題例
1	The secretary ordered <u>some expensive paper</u> .
2	It is impossible to meet <u>the present demand</u> .
3	The bus will let passengers get off only at <u>the designated locations</u> .
4	I really appreciated <u>my assistant's hard-working contribution</u> .
5	<u>The travel agent</u> has forwarded the tickets to his new address.
6	I forgot <u>Mr. Johnson's title in this organization</u> .
7	<u>All members of the staff</u> were invited to the opening ceremony.
8	Susan actually prefers <u>wine from France</u> .
9	I'd like to cancel <u>my reservation for tomorrow night</u> .
10	We will arrange <u>a meeting with Ms. Tanaka</u> as soon as possible.
11	<u>A dinner sponsored by the company</u> will be held this week on Friday.
12	Ken stared at <u>the dog barking beside the gate</u> .
13	Ms. Spears needs <u>a lawyer to support her</u> .
14	<u>A house facing south</u> gets plenty of sunshine.
15	I don't earn <u>enough money to buy a car</u> .

Table 6 Sample Test Questions for Producing a Noun Phrase Using High Frequency (Easy) Vocabulary

	問題例
1	あの背の高い人は私たちのクラスの新入生です。 (That tall young boy) is a new student in our class.
2	これらのアメリカのコインは大変古いです。 (These American coins) are very old.
3	うちの犬はいつもその小さな黒いネコを追いかけます。 Our dog always chases (that small black cat).
4	弟は大学で3つの外国語を勉強した。 My younger brother studied (three foreign languages) at the university.
5	親切な老人が一番近い駅まで連れて行ってくれました。 (A kind old man) took me to the nearest station.
6	テーブルの上の花はとても美しいです。 (The flower on the table) is very beautiful.
7	この手紙のコピーを3部作ってください。 Make (three copies of this letter), please.
8	スミス先生は私たちの学校で一番いい先生です。 Mr. Smith is (the best teacher in our school).
9	その野球についての本は難しすぎず、面白い。 (The book about baseball) is not too difficult, and is very interesting.
10	その髪の毛の長い女の子は私の妹です。 (The girl with long hair) is my little sister.
11	私たちはコンピュータを買う十分なお金があります。 We have (enough money to buy computers).
12	ベッドの上で寝ているネコはタマです。 (The cat sleeping on the bed) is Tama.
13	日本で作られた車は世界中で人気があります。 (Cars made in Japan) are popular all over the world.
14	私たちの学校図書館には夏目漱石によって書かれた本が何冊かあります。 The library at our school has (some books written by Natsume Soseki).
15	私の父はこの3週間することがたくさんあります。 My father has (many things to do) these three weeks.

要に応じて連携させることができるような能力が必要である。

Table 7 に、TOEIC 形式名詞句テストの例を示した。正解を下線と太字で示した。問題文の語彙レベルは TOEIC レベルの語彙を含むこととした。15 問全体での平均語数は各 9.1 語、名詞句の長さは 4.5 語であり、問題文の名詞句構造は名詞句境界把握テストおよび名詞句部分英作文テストと同一である。

4. 評価アンケート (質問紙)

一般的に CALL (Computer-assisted Language Learning) の実践報告においては、1つの項目で1つの構成概念 (construct) を測定するアンケートが使われていることが多い。しかし、学習者の特性を測定するという観点からは、測定誤差が避けられないため、3項目以上で1つの構成概念を測定する尺度を用いるほうが好ましい (Mizumoto, Chujo & Yokota, 2015)³⁴⁾。そのため、これまでの実践 (2004 年～2012 年) でのアンケート結果に基づき、2013 年に尺度の作成を行った。これにより、DDL を行っている学習者の特性をより深く、また (経年変化も含めて) より正確に調査することが可能になった。

4.1 作成方法

動機づけ、自己効力感、自己調整学習、学習スタイルなどの学習者要因については、先行研究 (Cohen, Oxford & Chi, 2006; Noels, Pelletier, Clément & Vallerand, 2000; Pintrich, Smith, Garcia & McKeachie, 1993; Sakai & Takagi, 2009; Sakui & Gaies, 1999)^{35), 36), 37), 38), 39)} で使用されている項目を用いるようにした。また、DDL、もしくは従来の指導 (Non-DDL) による文法学習に対して学習者がどの程度効果的と感じているか、そして、DDL を使った学習の利点については、2004 年から 2012 年までの DDL 実践において質問紙と自由筆記により学習者の意識調査・教材評価・感想を収集してきたため、これらの結果をもとにして、尺度として再構成した。学習者要因以外の尺度開発についての詳細は、Mizumoto, Chujo & Yokota (2015) を参照されたい⁴⁰⁾。パイロットテストなど、質問紙開発過程においては、項目分析、探索的・検証的因子分析を用い、より信頼性、妥当性の高い尺度となるようにした。

4.2 質問項目の構成

作成した質問紙は3つのパートから構成される。パート A は学習者要因を調査するものであり、(1) 動機づけ、(2) 自己効力感、(3) タスクの価値、(4) 自己調整学習/自律学習、(5) 学習に対する信念 (ビリー

Table 7 Sample Test Questions for Understanding Complex TOEIC-type Noun Phrases

	問題例
1	A husband and wife must respect each other to have a good (marry, marrying, marriage , married).
2	Do not speak in a (loud , louden, loudly, loudness) voice.
3	The (approaching , approached, approach, to approach) rain will spoil the beautiful cherry blossoms.
4	Williamson Furniture Company is well-known for its (comforted, comfortable , comfortably, comfortably) chairs.
5	I appreciate your (generosity, generous , generously, generousness) offer.
6	The lawyers will discuss further (modify, modifying, modifies, modifications) to the agreement.
7	The massive (build, built, building , to build) across the street is the Trump Tower.
8	Erica made a (profitable, profiting, profited, profit) of \$10,000 from selling her house.
9	Fred has a (broaden, broadly, broadness, broad) knowledge of science.
10	Ms. Jenkins will address the (concerns , concerned, concerning, to concern) about the economy at tomorrow's meeting.
11	The dinner (feature, features, featuring , featured) Madonna has been cancelled.
12	His attempt (become, became, to become , becomes) a writer hasn't been successful.
13	A study (conducted , conducting, conduct, conducts) by researchers was published today.
14	The museum displayed many exhibits (ranging , ranges, to range, have ranged) from science to literature.
15	The success of any business depends on its ability (provide, provides, to provide , provided) excellent service.

フ), (6) 学習スタイルの6つの下位尺度を50項目で測定する。パートBは, 学習者がDDL, Non-DDLともに, 文法学習に対してどの程度効果的と感じているかを調査する13項目と, 自由記述2項目から構成されている。パートCは, DDLを使った学習の利点についてたずねる項目であり, DDLを行った学習者のみが回答する。下位尺度は, Clarity (明瞭性) と Autonomy (自律性) の2つになっており, 下位尺度得点を合計しても, 解釈が可能なように設計されている (Mizumoto, Chujo & Yokota, 2015)⁴¹⁾。

これらの質問紙項目は, 「DDL使用がどのような要因(特性)を持った学習者に効果的か」, また, 「DDL使用をどのように感じている学習者に, より効果があるのか」というような調査を行う測定道具として利用されることを想定している。

4.3 作成した質問紙の例

以下に, 前述のように開発した質問紙の項目を Table 8, Table 9, Table 10 に挙げる。実施時には, 普通紙にマークシートを印刷した回答用紙 (Appendix) を用い, スキャナで読み取ることによって, 実施後の分析を行う。調査の目的に応じて, Table 8, Table 9, Table 10 はそれぞれ下記の指示文を付けて, 適宜使用できる。Table 10 は, “WebParaNews” の部分を当該実践で使

用したコーパスツールやソフトウェアの名称と置き換えて使用する。

5. まとめ

コーパスを活用したDDL実践研究を行って指導や学習の効果を検証する際には, 事前・事後テストや, 参加者の意識調査や教材評価などを調査する質問紙を使用することが多い。本稿では, そのような際に役立つ資料の1つとして, 筆者らが作成したテストや質問紙, すなわち, 初級レベル学習者向けの中学・高校文法熟達度テスト, 中級レベル学習者向けの名詞句定着確認テスト, そして, 学習者要因およびDDL文法学習についての評価をたずねる質問紙を本稿に提示した。今後, DDL実践研究を行う際に参考資料として活用されることを願う。

謝辞

本研究は平成25-28年度科学研究費助成事業基盤研究(B)(25284108)「多言語パラレルコーパスに基づくDDLオープンプラットフォームの構築と教育への応用」を受けて行われました。

それぞれの項目を読んで、「自分に当てはまるもの」を以下の6段階で回答してください。

全くあてはまらない (1) ほとんどあてはまらない (2) あまりあてはまらない (3) ややあてはまる (4) かなりあてはまる (5) よくあてはまる (6)

Table 8 Questionnaire Part A: Individual Differences

Part A：自分自身について	
1	私が英語を勉強しているのは、将来よりよい仕事に就くためである。
2	私が英語を勉強しているのは、難しい内容だったとしても興味がそそられるからである。
3	私は英語のテストで、ある程度点が取れると思う。
4	私が英語を勉強しているのは、他の人よりもよい成績を取りたいと思うからである。
5	学習内容を理解するとき、私は具体例や詳細を理解する必要があると思う。
6	この授業で学んでいる内容は役に立つので他でも使うことが出来ると思う。
7	英語の授業では先生が文法を日本語で説明するべきだと思う。
8	学習内容を理解するとき、細かい点を詳細に説明されたとしても苦にならない。
9	英語は日本語に訳すことができなければならないと思う。
10	私が英語を勉強しているのは、社会的に認められる人物になるためである。
11	学習内容を理解するとき、私は全体像を理解することができる。
12	私が英語を勉強しているのは、資格試験などでよりよい成績を収めたいからである。
13	私は英語の学習はあまり負担にならない。
14	文法や語彙の学習では、一般化できるルールを学んでからそれに関連した具体例を学ぶほうがよい。
15	文法や語彙の学習では、ルールをそれほど覚えられないので説明されても理解しづらい。
16	学習内容を理解するとき、私は情報の詳細に注意を向ける事が多い。
17	文法や語彙の学習では、その文法が実際に使われているのを何度も目にする事でルールを発見するほうがよい。
18	私は一般的な日本人英語学習者よりも英語ができると思う。
19	英語学習では語彙や文法に他のスキルよりも時間をかけるべきであると思う。
20	文法や語彙の学習では、全体的なパターンを確認してから具体例を見るような方法が好きだ。
21	学習内容を理解するとき、私は重要ではない詳細は無視することが多い。
22	英語学習では到達すべきゴールを自分で設定する。
23	私が英語を勉強しているのは、新しい発見があると嬉しさを感じるからである。
24	私が英語を勉強しているのは、内容を十分に理解したときに喜びを感じるからである。
25	学習内容を理解するとき、初めて聞くフレーズや言葉でもある程度理解することができる。
26	英語を話すということはまず日本語で考えたものを英語にすることだと思う。
27	この授業で学んでいる内容が好きである。
28	英語学習では語彙や文法の学習が他のスキルの学習よりも重要であると思う。
29	英語学習では自分が学習する方法を自分で決める。
30	学習内容を理解するとき、私は簡潔な説明のほうが長く丁寧な説明よりも好きだ。
31	私が英語を勉強しているのは、英語の知識が増えるのが楽しいからである。
32	私が英語を勉強しているのは、よい成績を取ることが自分にとって重要であるからである。

33	この授業で学んでいる内容は私にとって重要である。
34	私は英語がどちらかといえば得意だ。
35	学習内容を理解するとき、私は主旨がわかれば他のことは重要ではないと考える。
36	英語学習では自分が学習する教材を自分で選ぶ。
37	私は英語の学習を必要に応じて効果的に行うことができる。
38	英語ができるようになるためには、まず語彙や文法のルールを理解する必要があると思う。
39	私が英語を勉強しているのは、成績のためというよりは内容を学ぶことが大切だからである。
40	英語学習では自分の学習方法やどれだけ目標を達成できたかを自己評価する。
41	この授業で学んでいる内容を理解することがとても重要である。
42	英語学習では自分が学習するペースを自分で決める。
43	私が英語を勉強しているのは、難しくても新しいことを学べるのが楽しいからである。
44	私は基礎的な英語はある程度知っていると思う。
45	文法や語彙の学習では、(説明されるのではなく) 例文をたくさん見ることで間接的に学ぶほうがよい。
46	英語学習では学習の進捗状況を振り返って確認する。
47	この授業で学んでいる内容に興味がある。
48	私が英語を勉強しているのは、英語を勉強することが決まりのようなものだからである。
49	文法や語彙の学習では、具体例よりもルールや決まり事を先に学ぶべきだと思う。
50	この授業で学んでいる題材は役に立つと思う。

Table 9 Questionnaire Part B: Task Values for Grammar Activities

Part B: 授業での文法学習について	
1	授業での文法学習活動で、英語の力がついた。
2	授業での文法学習活動は、文法を学ぶのに役に立った。
3	授業での文法学習活動は、文法が記憶に残りやすかった。
4	授業での文法学習活動は、楽しかった。
5	授業での文法学習活動は、自分に合ったやり方だと思う。
6	授業での文法学習活動は、他の人にも薦めたい。
7	授業での文法学習活動で、英語学習への関心・意欲が高まった。
8	授業での文法学習活動は、何を学ぶべきか目標がはっきりしていた。
9	授業での文法学習活動は、集中して行うことができた。
10	授業での文法学習活動は、自分のペースで行うことができた。
11	授業での文法学習活動で、自分がわからないところがわかるようになった。
12	授業での文法学習活動は、学習している文法を理解するのに役立った。
13	授業での文法学習活動は、これまで受けてきた英語の授業と違ってよかった。
14	自由筆記：授業での文法学習活動でよかった点は_____です。
15	自由筆記：授業での文法学習活動で私が好きな点は_____です。

Table 10 Questionnaire Part C: Learners' Perceived Preferences and Benefits of DDL

Part C: コンピュータ (WebParaNews) を使った文法学習について	
1	WebParaNews のよいところは、例文をたくさん見ることができる点だと思う。
2	WebParaNews のよいところは、よく使われる例文がたくさんでてくる点だと思う。
3	WebParaNews のよいところは、単語がきれいにならぶ点だと思う。
4	WebParaNews のよいところは、日本語訳が見られる点だと思う。
5	WebParaNews のよいところは、実際に使われている英文が見られる点だと思う。
6	WebParaNews のよいところは、実際の単語の使われ方がよくわかる点だと思う。
7	WebParaNews のよいところは、手軽に大量の英文を見ることができる点だと思う。
8	WebParaNews のよいところは、使ったことのないソフトを使うことができる点だと思う。
9	WebParaNews のよいところは、教科書を使わない点だと思う。
10	WebParaNews のよいところは、あまり (英語) 学習をしている感じを与えない点だと思う。
11	WebParaNews のよいところは、自分で調べて学習することができる点だと思う。
12	WebParaNews のよいところは、自発的な (受け身でない) 点だと思う。
13	WebParaNews のよいところは、変化形など異なる形を目で見られる点だと思う。
14	WebParaNews のよいところは、単語の品詞を考えるようになるという点だと思う。
15	WebParaNews のよいところは、辞書よりたくさん例文が見られる点だと思う。
16	WebParaNews のよいところは、知らない用例が発見できる点だと思う。
17	WebParaNews のよいところは、どういう場面でその単語が多く使われているかわかる点だと思う。
18	WebParaNews のよいところは、どういう意味で扱われているのがわかる点だと思う。

参考文献

- 1) 村野井仁, 「教室第二言語習得研究と外国語教育」, 小池生夫, 寺内正典, 木下耕児, 成田真澄 (編), 『第二言語習得研究の現在』, 東京, 大修館書店, 2004, 103-122.
- 2) 中條清美, アンтони・ローレンス, 西垣知佳子, 「日英パラレルコーパス検索サイト *WebParaNews* の公開一開発と実践利用一」, 外国語教育メディア学会 (LET) 第52回全国研究大会, 甲南大学, 岡本キャンパス, 発表要項集, 2012年8月, 94-95.
- 3) Chujo, K., Anthony, L., Oghigian, K. and Yokota, K. Teaching Remedial Grammar through Data-driven Learning Using AntPConc. *Taiwan International ESP Journal*, 5(2), 2013, 65-90.
- 4) 中條清美, 西垣知佳子, 「英語教師と学習者のための教育用例文コーパス SCoRE の公開」, 言語教育エキスポ2016, 早稲田大学, 2016年3月6日.
- 5) Mizumoto, A. and Chujo, K. A Meta-analysis of Data-driven Learning Approach in the Japanese EFL Classroom. *English Corpus Studies*, 22, 2015, 1-18.
- 6) 中條清美, 横田賢司, 長谷川修治, 西垣知佳子, 「リメディアル学習者の英語習熟度と英語文法熟達度調査」, 日本大学生産工学部研究報告B (文系), 45, 2012, 43-54.
- 7) Mizumoto, A., Chujo, K. and Yokota, K. Development of a Scale to Measure Learners' Perceived Preferences and Benefits of Data-driven Learning. *ReCALL*, Vol. 28, Issue 2, 2016, 227-246.
- 8) 日本経済新聞, 「中3英語力 国の目標遠く」, 2016年2月3日.
- 9) 小野博, 村木英治, 林規生, 杉森直樹, 野崎浩成, 西森年寿, 馬場真知子, 田中佳子, 國吉丈夫, 酒井志延, 「日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育」, NIME 研究報告, 6, 2005, 1-147.
- 10) 中條清美, 西垣知佳子, 「リメディアル教育用英語検定学習教材の試用」, 日本大学生産工学部研究報告B (文系), 40, 2007, 47-53.
- 11) 小野他 (2005), 前掲論文.
- 12) 中條他 (2012), 前掲論文.
- 13) Chujo, et al. (2013), 前掲論文.
- 14) 有村兼彬, 天野政千代, 『英語の文法: 英語学入門講座・第8巻』, 東京, 英潮社, 1987.

- 15) 大津由紀雄, 「慶應義塾大学 COE・PLT 英語教育シンポジウム: 日本人の英語学習にふさわしい英文法の姿を探る」, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 2011年9月10日.
- 16) 白畑知彦, 「小学生と中学生の英語熟達度調査」, 小池生夫(編), 『第二言語習得研究を基盤とする小, 中, 高, 大の連携をはかる英語教育の先導的研究』(平成16~19年度科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書), 2008, 166-190.
- 17) 内堀朝子, 中條清美, 長谷川修治, 「初級レベル学習者の実用英語コミュニケーション能力を高める文法指導に関する研究」, 第42回大学英語教育学会全国大会, 東北学院大学, 2003年9月5日.
- 18) 白畑(2008), 前掲論文.
- 19) 白畑(2008), 前掲論文.
- 20) 白畑(2008), 前掲論文.
- 21) 白畑(2008), 前掲論文.
- 22) 白畑(2008), 前掲論文.
- 23) 内堀他(2003), 前掲論文.
- 24) 中條他(2012), 前掲論文.
- 25) 内堀他(2003), 前掲論文.
- 26) Uchibori, A., Chujo, K. and Hasegawa, S. Towards Better Grammar Instruction: Bridging the Gap between High School Textbooks and TOEIC, *Asian EFL Journal*, 8(2), 2006, 228-253.
- 27) Chujo, K. and Oghigian, K. DDL for EFL Beginners: A Report on Student Gains and Student Views on the Paper-based Concordancing and the Role of L1. In Thomas J. and Boulton, A. (eds.), *Input, Process and Product: Developments in Teaching and Language Corpora*. Brno, Czech Republic: Masaryk University Press, 2012, 169-182.
- 28) Chujo, K., Anthony, L., Oghigian, K. and Uchibori, A. Paper-based, Computer-based, and Combined Data-driven Learning Using a Web-based Concordancer, *Language Education in Asia*, 3, 2012, 132-145.
- 29) 内堀朝子, 中條清美, 「コーパスを用いた文法・語彙指導—基本的な名詞句構造に関する暗示的および明示的指導の組み合わせ—」, 日本大学生産工学部研究報告B(文系), 43, 2010, 1-11.
- 30) 金谷憲, 英語診断テスト開発グループ, 『英語診断テスト開発への道』, 東京, 英語運用能力評価協会, 2006.
- 31) 中條清美, 「英語初級者向け『TOEIC語彙1, 2』の選定とその効果」, 日本大学生産工学部研究報告B(文系), 36, 2003, 1-16.
- 32) 中條清美, 牛田貴啓, 山崎淳史, マイケル・ジナング, 内堀朝子, 西垣知佳子, 「ビジュアルベシックによるTOEIC用語彙力養成ソフトウェアの試作Ⅲ」, 日本大学生産工学部研究報告B(文系), 37, 2004, 29-43.
- 33) 白畑(2008), 前掲論文.
- 34) Mizumoto, et al. (2015), 前掲論文.
- 35) Cohen, A. D., Oxford, R. L. and Chi, J. C. Learning Style Survey: Assessing Your Learning Styles. In Cohen, A. D. and Weaver, S. J. (eds.), *Styles and Strategies-based Instruction: A Teachers' Guide*. Minneapolis, MN: Center for Advanced Research on Language Acquisition, University of Minnesota, 2006, 15-21.
- 36) Noels, K. A., Pelletier, L. G., Clément, R. and Vallerand, R. J. Why Are You Learning a Second Language? Motivational Orientations and Self-determination Theory. *Language Learning*, 51, 2000, 57-85.
- 37) Pintrich, P. R., Smith, D. A. P., Garcia, T. and McKeachie, W. J. Reliability and Predictive Validity of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire (MSLQ). *Educational and Psychological Measurement*, 53, 1993, 801-813.
- 38) Sakai, S. and Takagi, A. Relationship between Learner Autonomy and English Language Proficiency of Japanese Learners. *The Journal of Asia TEFL*, 6, 2009, 297-325.
- 39) Sakui, K. and Gaies, S. J. J. Investigating Japanese Learners' Beliefs about Language Learning. *System*, 27, 1999, 473-492.
- 40) Mizumoto, et al. (2015), 前掲論文.
- 41) Mizumoto, et al. (2015), 前掲論文.

(H 28 . 2 . 10 受理)

Appendix Answer Sheet

番号										① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	●
氏名									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
このスペースはご自由にお使いください									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
									① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩		
Part A											
1	0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0	Part B			Part C				
2	0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0	1	0 0 0 0 0 0	1	0 0 0 0 0 0				
3	0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0	2	0 0 0 0 0 0	2	0 0 0 0 0 0				
4	0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0	3	0 0 0 0 0 0	3	0 0 0 0 0 0				
5	0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0	4	0 0 0 0 0 0	4	0 0 0 0 0 0				
6	0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0	5	0 0 0 0 0 0	5	0 0 0 0 0 0				
7	0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0	6	0 0 0 0 0 0	6	0 0 0 0 0 0				
8	0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0	7	0 0 0 0 0 0	7	0 0 0 0 0 0				
9	0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0	8	0 0 0 0 0 0	8	0 0 0 0 0 0				
10	0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0	9	0 0 0 0 0 0	9	0 0 0 0 0 0				
11	0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0	10	0 0 0 0 0 0	10	0 0 0 0 0 0				
12	0 0 0 0 0 0	37	0 0 0 0 0 0	11	0 0 0 0 0 0	11	0 0 0 0 0 0				
13	0 0 0 0 0 0	38	0 0 0 0 0 0	12	0 0 0 0 0 0	12	0 0 0 0 0 0				
14	0 0 0 0 0 0	39	0 0 0 0 0 0	13	0 0 0 0 0 0	13	0 0 0 0 0 0				
15	0 0 0 0 0 0	40	0 0 0 0 0 0	14	裏面に記入してください	14	0 0 0 0 0 0				
16	0 0 0 0 0 0	41	0 0 0 0 0 0	15	裏面に記入してください	15	0 0 0 0 0 0				
17	0 0 0 0 0 0	42	0 0 0 0 0 0			16	0 0 0 0 0 0				
18	0 0 0 0 0 0	43	0 0 0 0 0 0			17	0 0 0 0 0 0				
19	0 0 0 0 0 0	44	0 0 0 0 0 0			18	0 0 0 0 0 0				
20	0 0 0 0 0 0	45	0 0 0 0 0 0								
21	0 0 0 0 0 0	46	0 0 0 0 0 0								
22	0 0 0 0 0 0	47	0 0 0 0 0 0								
23	0 0 0 0 0 0	48	0 0 0 0 0 0								
24	0 0 0 0 0 0	49	0 0 0 0 0 0								
25	0 0 0 0 0 0	50	0 0 0 0 0 0								
●										●	

